

運送業界の健康支援を生きがいに



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク
(OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

サポートしてまいります。

(次回は2月9日号に掲載)

211 健診情報のビッグデータ活用を目指して

コロナを機に、生活様式やビジネスのあり方が随分と変わりました。物流では、「ロボットの活躍」や自動運転、さらにICTなどが新時代の物流のあり方として期待されるところですが、現場サイドの感覚としては、その道のりはまだまだ遠いように感じられます。さらに、労働時間や働き方を見つめ直す「2024年問題」がいよいよ来年と迫る中、ドライバーの労働環境や身体への負担が少しでも緩和されればと、新年に際し心新たに願うものです。

●健康データの活用を

健康起因事故が急増する中、各企業においても、「ドライバーさんの健康があればこそ…」という考え方が浸

透してきました（やっつとです！）。しかし、その取り組みを垣間見ると、残念ながら

●点呼時には基礎疾患の把握を

本年から遠隔点呼が一部可能となり、点呼の多用化が進みつつありますが、対面点呼において運行管理者が行う顔色チェックや声掛けだけでは限界もあり、ドライバーの基礎疾患まで踏み込んだ健康リスクの把握は不可能といえます。せっかく総務・人事の手元には健診結果があるので、から、ぜひこれらの健康情報を有効活用いただき、点呼の精度アップにお役立てください。

●情報の合わせ技

点呼時には基礎疾患の把握をしなければなりません。健康情報は管理部門のみならず、安全を死守すべき運行管理、つまり点呼でこそ活用されなければなりません。

今後の運行管理のあり方を考えるとき、「安全+健康+働き方」のミックス版、つまりビッグデータの活用は不可欠です。安全の背景には健康があり、健康の背景には日々の過ごし方、つまり生活習慣があり、生活習慣は働き方と表裏一体です。当法人は生活習慣や労働時間にまで着目した、運輸ヘルスケアナビシステム（全ト協事業）にて、今年も運輸業の皆さんの健康をサポートしてまいります。